

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第60期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社フコク
【英訳名】	Fukoku Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河本 次郎
【本店の所在の場所】	埼玉県上尾市菅谷三丁目105番地
【電話番号】	048(600)1700(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 木村 尚
【最寄りの連絡場所】	埼玉県上尾市菅谷三丁目105番地
【電話番号】	048(600)1700(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 木村 尚
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第3四半期連結 累計期間	第60期 第3四半期連結 累計期間	第59期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	40,202	43,023	54,469
経常利益(百万円)	2,581	2,689	3,267
四半期(当期)純利益(百万円)	1,645	1,684	2,323
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,084	1,893	1,858
純資産額(百万円)	22,539	24,698	23,302
総資産額(百万円)	46,393	47,624	47,731
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	95.86	98.10	135.35
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	95.77	98.01	135.22
自己資本比率(%)	46.1	49.5	46.4

回次	第59期 第3四半期連結 会計期間	第60期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	38.88	28.26

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、連結子会社であったフコクゴム(上海)有限公司は第2四半期連結会計期間において清算いたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、契約期間満了により終了した契約は以下のとおりであります。

技術供与契約

契約締結先	内容	有効期間	対価
C F ゴンマ社（イタリア）	C V J ブーツの製造技術	自平成14年12月1日 至平成24年11月30日	売上高の一定割合

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下に記載される全ての財務情報は、当四半期報告書において開示される連結財務諸表に基づいております。また、文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における経済情勢を見ますと、震災からの復興に向けた動きやエコカー購入支援策による自動車販売の好調などを受け、内需は概ね堅調な滑り出しとなりましたが、一方で欧州債務問題による海外景況の停滞、新興国の成長鈍化が影を落とし、秋口には領土問題の緊張に起因する中国の不買運動が発生するなど、第3四半期を境にして景気後退への懸念が増す状況となりました。

当社グループの主要顧客先である自動車産業におきましても、長期化する円高、空洞化傾向などの影響から海外シフトが進行する中、当初は国内生産の回復が追い風となっておりましたが、経済情勢の減速感、中国の不買運動の煽りなどを受けて、厳しい経営環境に直面することとなりました。

このような状況下、当社グループの業績は期の前半を中心に概ね順調な推移を示し、前年同期が震災の影響を被ったこともあって、連結売上高は前年同期比7.0%増の430億23百万円、営業利益は同3.9%増の26億5百万円、経常利益は同4.2%増の26億89百万円、四半期純利益は同2.4%増の16億84百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りです。

#### 機能品事業

国内外における受注の堅調を反映し、売上高は前年同期比8.1%増の211億17百万円となりました。一方、セグメント利益は韓国内需の低迷、ベトナムやタイへの移管、グローバル事業管理の体制構築に伴う負荷等の影響を受けて、前年同期比6.2%減の32億69百万円となりました。

#### 防振事業

主にアセアンを中心とする海外の堅調を反映し、売上高は前年同期比4.3%増の163億29百万円、セグメント利益は同14.0%増の11億64百万円となりました。

#### 金属加工事業

主に国内トラック関連で期の前半を中心に受注が好調だったことから、売上高は前年同期比17.4%増の41億93百万円となりました。また、セグメント利益は増収効果が大きく、同90.5%増の1億78百万円となりました。

#### その他

第2四半期までのホース事業における堅調な受注を反映して、売上高は前年同期比9.2%増の23億56百万円となりました。一方、セグメント利益はウレタン事業の不振、ホース事業のインドネシア移管に伴う負荷等の影響を受け、前年同期比37.7%減の38百万円となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの事業は自動車産業を始めとして、建機、OA、鉄道など、グローバルに展開している国内外メーカーに製品を供給することで成り立ち、目まぐるしく変化する世界情勢と最適地生産・調達の流れの中で、熾烈な競争にさらされております。

足元の経済情勢については、欧州債務問題、米国景気の回復状況、領土問題に端を発するチャイナリスクなどが不透明な状況を呈する中、牽引役として期待された新興国の成長にも鈍化の兆しが表れております。また、日本国内では一昨年3月に発生した東日本大震災からの復興が進み、政権交代による景気浮揚への期待が高まる一方で、長期的な“空洞化”への不安は払拭されないままです。

主要顧客先である自動車産業はグローバルベースで生産を伸張させつつありますが、リーマンショックを境に日系メーカーも新たな競争構造への対応を迫られるようになり、新興国市場への参入、部品の共通化、H VやE Vの開発、低燃費化や軽量化など新技術への取り組みにも拍車がかかっております。このような傾向に円高基調と震災が追い討ちをかけた格好で、サプライチェーンの再編や海外シフトの加速も喫緊の課題となりました。空洞化対応策としてグローバル化を進める各企業は、新たに伸びる地域・マーケットに追随し、ローカルメーカーと競争あるいは提携しながら、従来の枠組みを超えたビジネスへの適応を求められている状況です。

長期的・持続的な発展を目指す当社グループとし、また、「強い商品を世界に展開する」という基本方針に沿って、世界中のお客様の要望に応えられる体制の構築を優先課題とし、グローバル戦略を遅滞なく確実に推進していく必要があります。またそれと併行して新技術・新商品の開発を加速し、次代の戦略商品群の充実を図ってまいります。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

#### 基本方針の内容

当社は、永年蓄積した業務知識、ノウハウを活用することによって顧客満足度をより高めることを経営の基本施策として、長期的視野に立った経営を行い、それにより強固な財務基盤を形成し、高収益、安定配当の実現を掲げております。従って、経営の効率性や収益性を高める観点から、専門性の高い業務知識、ノウハウを備えた者が取締役に就任して、当社の財務及び事業の方針の決定につき重要な職務を担当することが、会社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものと考えており、このことをもって会社の財務及び事業の方針の決定における基本方針としております。

#### 具体的な取組み

##### イ．基本方針の実現に資する取組み

当社は、主として自動車向けをはじめとする工業用ゴム製品の製造・販売企業であることから、良い製品を社会に提供することが当社が社会に貢献することであると考え、また、そのことに誇りを持って事業活動を続けてまいりました。そして当社は、そのような考えに基づき会社を運営することが、「株主」の皆様をはじめ「お得意先」「お取引先」「従業員」あるいは「地域社会」等のすべてのステークホルダーから評価されることと考え、また、それが株主価値の最大化に資するものであると考えております。そこで当社は企業価値・株主共同の利益の確保・向上のために、（ ）経営の透明性の向上、（ ）コーポレート・ガバナンスの強化、（ ）安全で高品質な製品の提供、を事業活動を行う上で重要な課題として掲げ、取り組んでおります。

##### ロ．不適切な支配の防止のための取組み

当社では、株式の大量買付行為等がなされた場合であっても、事業会社の社会的存在価値を踏まえた企業経営を十分に理解し、企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の経営権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量買付行為等の中には、企業価値ひいては株主共同の利益に明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、あるいは対象会社が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者の提示した条件よりも有利な条件を引出すために買付者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資さないものも少なくありません。

従って当社は、当社株券等の大量の買付行為等が行われる場合に、不適切な買付行為等でないかどうかを株主の皆様が判断されるために必要な情報と時間を確保することや、株主の皆様のために買付者と交渉を行うことを可能とすることにより、当社の企業価値・株主共同の利益に反する買付行為等を抑止するための枠組みが必要であるとの結論に至り、平成19年6月28日開催の第54回定時株主総会において、当社株券等の大量買付行為等に関する対応策（以下「買収防衛策」といいます。）の導入について、株主の皆様のご承認をいただきました。その後、平成21年6月26日開催の第56回定時株主総会において、この買収防衛策を一部修正した上で継続させていただき、平成24年6月26日開催の第59回定時株主総会において、更なる継続についてご承認いただいております。

当社の買収防衛策の主な内容は、当社の株券等保有割合が20%以上となるような買付等を行う者または提案する者に対して、( )買付行為の前に、当社取締役会に対して、買付等の内容検討に必要な情報及び当社が定める手続きを遵守する旨の誓約文を提出すること、( )その後、当社取締役会から独立した第三者により構成される独立委員会が、その買付等の内容と当社取締役会の事業計画等を比較検討する期間を設けるとともに、当社が定める手続きを遵守しなかった場合または当社の企業価値・株主共同の利益を害するおそれがある場合等には、新株予約権の無償割当ての方法による対抗措置を講じるというものであります。

なお、この買収防衛策の詳細については、平成24年5月15日付けで「当社株券等の大量買付行為等に関する対応策（買収防衛策）の継続について」として公表いたしております。このプレスリリースの全文は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.fukoku-rubber.co.jp/>）に掲載しておりますのでご参照下さい。

上記 の取組みについての取締役会の判断

イ．当社取締役会は、上記 の取組みが当社の上記 の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値・株主共同の利益を確保するための取組みであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではないと考えます。

それは、i) 経営の透明性の向上、( )コーポレート・ガバナンスの強化、( )安全で高品質な製品の提供といった取組みを事業の重要な課題として推し進めることが、更なる高収益事業構造の構築ひいては企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資するものであると考えること、及び、前述 ロ．に記載のとおり買収防衛策は、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものでありますので、いずれも当社基本方針に沿うものと考えます。

ロ．当社の買収防衛策は、取締役会の恣意的な判断を排するため、当社経営陣から独立した者のみから構成される独立委員会を設置し、独立委員会の勧告を最大限尊重して買収防衛策を発動すること等が定められており、取締役の地位の維持を目的とするものではありません。

### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は9億50百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	17,609,130	17,609,130	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,609,130	17,609,130	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	17,609,130	-	1,395	-	1,514

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 440,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,154,000	171,540	-
単元未満株式	普通株式 14,230	-	-
発行済株式総数	17,609,130	-	-
総株主の議決権	-	171,540	-

(注)上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が10,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数100個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フコク	上尾市菅谷3-105	440,900	-	440,900	2.50
計	-	440,900	-	440,900	2.50

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,262	7,359
受取手形及び売掛金	15,328	14,511
商品及び製品	1,528	1,706
仕掛品	828	799
原材料及び貯蔵品	1,180	1,156
その他	1,189	1,044
貸倒引当金	7	6
流動資産合計	28,310	26,572
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,108	5,211
機械装置及び運搬具(純額)	5,720	5,804
土地	5,738	5,997
その他(純額)	1,830	2,786
有形固定資産合計	18,396	19,799
無形固定資産		
その他	232	296
無形固定資産合計	232	296
投資その他の資産		
投資有価証券	376	527
その他	422	429
貸倒引当金	5	1
投資その他の資産合計	793	956
固定資産合計	19,421	21,052
資産合計	47,731	47,624

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,135	9,315
短期借入金	5,036	4,619
未払法人税等	768	98
賞与引当金	687	387
その他	2,890	3,643
流動負債合計	19,518	18,065
固定負債		
長期借入金	3,230	3,099
退職給付引当金	869	792
役員退職慰労引当金	515	551
負ののれん	0	0
その他	294	417
固定負債合計	4,910	4,860
負債合計	24,429	22,926
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,563	1,564
利益剰余金	21,398	22,740
自己株式	236	225
株主資本合計	24,121	25,475
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	64	56
為替換算調整勘定	2,052	1,957
その他の包括利益累計額合計	1,987	1,901
新株予約権	17	16
少数株主持分	1,151	1,107
純資産合計	23,302	24,698
負債純資産合計	47,731	47,624

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	40,202	43,023
売上原価	32,347	34,708
売上総利益	7,855	8,314
販売費及び一般管理費	5,347	5,709
営業利益	2,507	2,605
営業外収益		
受取利息	37	31
受取配当金	4	4
負ののれん償却額	12	0
持分法による投資利益	-	13
その他	247	202
営業外収益合計	301	251
営業外費用		
支払利息	122	97
為替差損	98	32
その他	6	37
営業外費用合計	227	167
経常利益	2,581	2,689
特別利益		
固定資産売却益	13	7
特別利益合計	13	7
特別損失		
固定資産売却損	5	10
固定資産除却損	20	30
その他	6	0
特別損失合計	31	41
税金等調整前四半期純利益	2,563	2,656
法人税、住民税及び事業税	677	545
法人税等調整額	145	304
法人税等合計	823	850
少数株主損益調整前四半期純利益	1,740	1,805
少数株主利益	94	120
四半期純利益	1,645	1,684

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,740	1,805
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	7
為替換算調整勘定	640	96
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	655	88
四半期包括利益	1,084	1,893
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,075	1,771
少数株主に係る四半期包括利益	9	122

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、フコクゴム（上海）有限公司は清算したため、連結の範囲から除外しております。

【会計方針の変更】

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び一部の国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ12百万円増加しております。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	87百万円	77百万円
支払手形	120	114
設備関係支払手形	56	29

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）の償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	2,165百万円	2,116百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	171	10	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	171	10	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	171	10	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	171	10	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機能品	防振	金属加工	計				
売上高								
外部顧客への売上高	18,962	15,658	3,559	38,181	2,020	40,202	-	40,202
セグメント間の内部売上高又は振替高	581	-	10	592	137	729	729	-
計	19,544	15,658	3,570	38,773	2,158	40,932	729	40,202
セグメント利益	3,486	1,020	93	4,600	62	4,663	2,155	2,507

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社のホース事業及びウレタン事業等であります。

2. セグメント利益の調整額 2,155百万円には、セグメント間取引消去 1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,153百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機能品	防振	金属加工	計				
売上高								
外部顧客への売上高	20,320	16,329	4,170	40,820	2,202	43,023	-	43,023
セグメント間の内部売上高又は振替高	797	-	22	820	153	974	974	-
計	21,117	16,329	4,193	41,640	2,356	43,997	974	43,023
セグメント利益	3,269	1,164	178	4,611	38	4,650	2,045	2,605

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社のホース事業及びウレタン事業等であります。

2. セグメント利益の調整額 2,045百万円には、セグメント間取引消去 8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,036百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当社及び一部の国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「機能品事業」で5百万円、「防振事業」で2百万円、「その他」で1百万円増加しております。また、報告セグメントに帰属しないセグメント利益の調整額(全社費用)が2百万円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	95円86銭	98円10銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,645	1,684
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,645	1,684
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,166	17,174
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	95円77銭	98円01銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	15	15
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

1. 中間配当による配当金の総額・・・171百万円
2. 1株当たりの金額・・・10円
3. 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・平成24年12月7日

(注)平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当金を支払いました。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月4日

株式会社フコク  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 布施木孝叔 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 入江秀雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フコクの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フコク及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。